

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	進捗状況（H28年度末現在）	進捗状況（H29年度末現在）	地区振興計画	H27当初予算	H28当初予算	H29当初予算	H30当初予算	完結分			
H26	1	黒木	学童保育「黒木わいわいクラブ」の施設増設について	子育て支援課	国の支援制度で、利用できるメニューがあるとするならば、活用したいと考えている。本年度は、4月からの新たな制度に向け、放課後児童クラブについて、国の指針をまいりし、設備・面積・利用人員等の基準を定めた条例を制定したが、これらの基準を満たさないクラブもあるので、この課題も解決しなければならない。	・児童クラブの増設等に対する制度について、国の支援事業の情報収集に努めている。 ・今後、将来的なものも含め効果的な制度がでないか、代表者会議等で協議を行い、検討してまいりたい。	・国の支援制度では実施が難しい。市単独事業での実施ができないか、検討中である。	・市の単独事業として、平成29年度予算に措置済み H29年度から補助事業を実施予定							○			
H26	2	上手	人口減少に歯止めをかけ、希望の持てる祁答院地域をめざすまちづくりの施策について（人口増を目指す長期の計画策定について）	企画政策課	国では、昨年、人口減少・少子高齢化の課題を克服するため「まち・ひと・しごと創生法」を制定した。これを受けて、本市でも、市長を本部長とする会議を設置し、平成27年度中に、これらの問題を少しでも改善するために、戦略という形で施策をまとまたい。本日、御出席の市民・関係団体の御意見やアイデアをいただきながら、また、連携し、御協力をいただきながら、進めていく考えである。	・まち・ひと・しごと創生法に基づく総合戦略の策定作業に着手したところであり、市長を本部長とする庁内検討組織「総合戦略推進本部」を設置するとともに、地域の意見を反映するため市民はしめ産学官金労など御協力いただき「総合戦略検討委員会」を設置し、様々な角度から意見をいただきたい。 ・27年度中、早い時期に総合戦略として取りまとめたいと考えている。	・平成27年10月に、まち・ひと・しごと創生薩摩川内市総合戦略を策定した。 ・特に、薩摩川内市人口ビジョンにおいて整理した地域課題と目指すべき将来展望を実現していくために、①雇用、②移住、③結婚・出産・子育て、④地域づくりの4つの分野から構成される施策を、集中的かつ効果的に推進・展開していくものである。	・人口減少、少子高齢化という大きな課題に対して、持続可能なまちづくりを推進するため、薩摩川内市総合戦略に基づき、①雇用、②移住、③結婚・出産・子育て、④地域づくりの4つの分野から構成される施策を、集中的かつ効果的に推進・展開している。	・同左			○						
H26	2	上手	人口減少に歯止めをかけ、希望の持てる祁答院地域をめざすまちづくりの施策について（祁答院地区の振興計画を策定する必要性について）	コミュニティ課（現 地域政策課）	地区単位の振興計画策定はお願いしていきたいが、町全体の計画は任意であることを御理解いただきたい。	各地区単位の振興計画の策定はお願いしていきたいが、祁答院地域全体の計画は連絡会において、情報交換や連携を図り対応していただきたいと考えている。										○		
H26	2	上手	人口減少に歯止めをかけ、希望の持てる祁答院地域をめざすまちづくりの施策について（祁答院支所の廃止・統合は絶対にしていただきたい。）	行政改革推進課	今後も、引き続き業務の集約や本庁・支所の業務分担を整理する等し、組織を絶えず見直していかなければならない。支所の統廃合については、議会や市民の方から様々な御意見もある。当分の間は支所という形は存続させるという市の考え方であるが、今後、支所の在り方について検討し、先に進めていかなければならないと考えている。	支所の組織については、当分の間は存続させるという市の考え方を基に、支所業務の集約や本庁・支所の業務分担を整理し平成27年度の組織・機構の見直しを行った。 今後も行政改革の大きな課題の一つである「人件費、職員が多い」という問題を解決するため、引き続き組織の見直しを検討し先に進めていかなければならないものと考えている。										○		
H26	2	上手	人口減少に歯止めをかけ、希望の持てる祁答院地域をめざすまちづくりの施策について（「薩摩川内市財産仕分け・利活用方針」の見直しについて）	財産活用推進課	現在、財産の仕分けに基づく方向については、所管課を通じて、それぞれの地区コミュニティ協議会や各団体等へ説明を実施し、御理解を求めている。今のところ「薩摩川内市財産仕分け・利活用方針」の見直しについては、未だ予定していない。閉鎖は別として、売却・譲与・貸付については、その施設が無くなるわけではなく、何らかの方法で存続できないかという意味で、協議させていただいている。	各施設所管課が一般公募や地区コミュニティ協議会、各種団体等への説明会を行い、財産処分の手続きを実施しているところであり、今のところ、「薩摩川内市財産仕分け・利活用方針」を見直す予定はない。 薩摩川内市公有財産利活用基本方針に基づく財産仕分け・利活用方針は、地方交付税の合併特例措置が段階的に縮減され、市の財政状況は一層厳しいものとなることが予想され、平成32年度までの財政運営の方向性を具体的に明示した「薩摩川内市財政運営プログラム」の中で、恒常的な施設管理経費が長期的な財政運営の支障の要因となっていることから、財産の有効活用、民間活力の活用、管理経費の縮減をより一層進めるため、各施設の必要性（事業目的）、品質性及び採算性（利用状況）を総合的に判断し、1,230施設の中から165施設を処分財産（廃止、売却、譲与、閉鎖）としたものである。												○
H26	2	上手	人口減少に歯止めをかけ、希望の持てる祁答院地域をめざすまちづくりの施策について（中越パルプ川内工場が計画している木質バイオマス発電燃料に間伐材を活用によって、地元住民が得られる収入の試算について）	林務水産課	計画を進める当たり、中越パルプ木質バイオマス協議会を立ち上げている。協議会は、素材生産業者、植林業者、森林組合の21社で構成されており、本市もオブザーバーとしてまいりしている。 発電施設に係る燃料の調達等についても、当然、同協議会での検討課題である。単価設定については、伐採や流通コストが現場毎に違う。また、現時点で、中越パルプのチップ購入価格が決定していないと聞いている。従って、現時点で一概に試算を示すことが出来ない状況である。	中越パルプ木質バイオマス協議会の立ち上げや、運転開始も平成27年度から予定される。 発電施設に係る燃料となる木チップの調達等については、伐採や流通コストが現場毎に違うため、地元住民が得られる収入の試算はできないと回答し御理解を求めたところである。 このような中で、市としても流通コスト等の安定化が図れるように、民間の事業者等が行う私有林の集約化や路網の整備、搬出、間伐施業の支援を引き続き進めていきたい。											○	

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	進捗状況（H28年度末現在）	進捗状況（H29年度末現在）	地区振興計画	H27当初予算	H28当初予算	H29当初予算	H30当初予算	完結分		
H26	3	大村	県道危険箇所の改善について（大村報徳学園下の県道川内祁答院線の拡張について）	建設政策課	長年、未改良となっている大村報徳学園下の県道川内祁答院線の部分である。新年度以降、県と市で一緒に交渉を再開したい。	・平成26年度は特に動きはなかった。 ・平成27年度は県と市で用地交渉を再開したいと考えている。	・平成27年度は2回用地交渉を行ったが、今後も状況をみながら県と市で交渉してまいりたい。	・平成28年度も、引き続き用地交渉を行った。今後も県と市において、交渉を継続してまいりたい。	・平成29年度も、引き続き用地交渉を行った。今後も県と市において、交渉を継続して参りたい。								
H26	3	大村	県道危険箇所の改善について（信号機の設置、横断歩道の設置、交差点の改良等について）	防災安全課	交通安全協会祁答院支部から協会事務局へ道路診断実施の申入れをしていただきたい。	・平成27年春の道路診断を実施予定である。	・平成27年春（5月20日）に道路診断を実施した。①大村保育園・大村団地入口は、県において交差点にドットラインを引き、交差点を強調するほか、カーブ地点に減速マーキングを設置する。また、市では交差点付近樹木の伐採の依頼をする。②Aコープ大村店前は、県市で標識改良を検討する。③祁答院駐在所前は小中学校があり交通量が多いことから、警察署において信号機設置を申請する。④永福橋先は、横断歩道の設置により危険性が高まることから、設置しないとの結果であった。しかし、歩道がバリアフリーでないため鹿児島県が歩道整備を検討したいとのことであった。	・平成27年春の道路診断を踏まえ、方針を決定し、取り組んでいる。 ①大村保育園・大村団地入口は、交差点にドットライン、カーブ地点に減速マーキングを設置する方針としていたが、現在の道路舗装状態が悪いことから、今後道路舗装をやり直した時点で、県において設置する予定。 ②Aコープ大村店前は、すでに県市で標識改良済みである。 ③祁答院駐在所前は、すでに警察署から県公安委員会に信号機設置を申請済みである。 ④永福橋先は、横断歩道は設置せず、県が歩道整備を検討したいとの意向であったが、28年度まで予算がつかず、29年度以降検討すると聞いている。	・平成27年春の道路診断を踏まえ、方針を決定し、取り組んでいる。 ①大村保育園・大村団地入口は、交差点にドットライン、カーブ地点に減速マーキングを設置する方針としていたが、現在の道路舗装状態が悪いことから、今後道路舗装をやり直した時点で、県において設置する予定。 ②Aコープ大村店前は、すでに県市で標識改良済みである。 ③祁答院駐在所前は、すでに警察署から県公安委員会に信号機設置を申請済みであるが設置の有無は未定。 ④永福橋先は、横断歩道は設置せず、県が歩道整備を検討したいとの意向であると聞いている。								
H26	4	轟	農道世永瀬線・道路冠水区間の早期整備について	耕地課	県営中山間地域総合整備事業での整備を検討してきたが、事業採択が厳しい状況である。引き続き、何らかの事業による整備ができないか検討してまいりたい。 冠水区間については、一部嵩上げ工事等を実施し、しばらく様子を見たい。	川の水がはいてこないように、土嚢を三程度積んで冠水対策として対応したい。また、浸かる頻度や状況が判らないので確認をさせていただきたい。	平成27年度に冠水区間を嵩上げ整備施工済。（設大57cm コンクリート舗装L=120m）尚、河川断面の確保のため、下流の浚渫工事が6月中に完了する予定である。（県発注工事）								○		
H26	5	蘭牟田	観光名所「蘭牟田池県立自然公園」の自然環境と今後の入込客増加対策について	観光・ホテル課	今後の植栽等については、テングス病の処理後の状況をみながら、桜や紅葉等、四季を通じて楽しめる樹木の植栽を計画的に進めたい。蘭牟田池自然公園の管理については、地元としても積極的に協力したいとの申し出もあったので、これまで以上に御協力をお願いしたい。市と一緒に、公園を綺麗にし、多くの観光客を呼ぶような仕掛けをつくりたい。	・テングス病処理については、指定管理者が一部処理を実施した。また、千年の森整備事業として紅葉の植栽を予定している。 ・入込客増加については、既存の花火大会等のイベントを継続させていきたい。また、ベッコウトンボ等を活用した環境学習、あるいは、外輪山を利用した健康づくりの場として多くの方々にお越しいただくための情報発信を強化したい。 ・蘭牟田温泉の活性化も対策の一つであると考えている。地域の方々と意見交換会を開催し、検討したい。	・テングス病処理は平成28年3月に実施済み。同時に、桜を35本植栽した。 ・蘭牟田池への集客については、既存のイベントに加え、県外企業が外輪山を活用したトレイルランニング大会を実施。その際、夜の交流会を地元公民館で開催していただき交流を図ることができた。 ・引き続き、蘭牟田池の情報発信に努めるとともに、きゃんぱく体験プログラムを絡めながら、魅力発見・発信に努めてまいりたい。	・既存のイベントに加え、県外企業が外輪山を活用したトレイルランニング大会を実施。その際、夜の交流会を地元公民館で開催していただき交流を図ることができた。 ・引き続き、蘭牟田池の情報発信に努めるとともに、きゃんぱく体験プログラムを絡めながら、魅力発見・発信に努めてまいりたい。	・既存のイベントに加え、県外企業が外輪山を活用したトレイルランニング大会を実施。その際、夜の交流会を地元公民館で開催していただき交流を図ることができた。 ・引き続き、蘭牟田池の情報発信に努めるとともに、きゃんぱく体験プログラムを絡めながら、魅力発見・発信に努めて参りたい。			○					
H28	1	黒木	農業振興対策について 過疎化、高齢化が進展すると、農林地域の衰退は座視できない。夢と希望のある将来に向けた農業振興策について、今後、積極的に取り組んでいかれるのか。またその具体的な内容について伺いたい。	農政課	農地利用については、様々な事業を活用した担い手への農地集積・集約化を推進していくとともに、耕作放棄地解消等に取り組んでまいりたい。 水田農業の取り組みについては、国の動向を見据えつつ、情報収集を行い、関係機関とともに検討しながら、農家の皆さんの所得確保に努めたい。 併せて、農道、用水路等の維持修繕や鳥獣被害防止施設の設置等により、被害防止に努めることで、農業生産基盤の維持保全にも努めたい。 新規農業者については、関係機関との連携により、栽培技術指導や経済的な支援を行いながら、経営感覚に優れた、足腰の強い脳化を育成したい。 認定農業者や担い手農家については、国県事業を取り入れ、集落営農組織や地域の農業活性化の中核となる農業経営体へ育成するとともに、法人化へも誘導したい。 高齢者については、JA等が推進する少量多品目の生産拡大を進め、地産地消を図り、生きがい農業の推進に努めたい。					・平成28年度において、国県の補助事業等を活用しながら、農家の所得向上を図るとともに、担い手農家の確保・育成、また、農地の集積、耕作放棄地の解消、有害鳥獣対策、農業基盤の整備等、各種農業施策を展開してきたところである。 ・JA共販品目を中心に市の重点品目を位置付け、市場関係者に積極的に販売促進活動を展開しながら産地づくりに取り組み、消費地から高い評価を得ている。また、地域性を活かした作付面積の少ない品目においても、市場性の高い品目を推奨品目として、生産振興に取り組んでいる。 ・新規就農者については、農業公社の研修制度や国の新規就農者支援事業等を活用しながら育成支援している。また、国県事業並びに市単独事業により、経営の基盤となる施設機械等の整備導入を支援している。						○	○
H28	1	黒木	農業振興対策について 過疎化、高齢化が進展すると、農林地域の衰退は座視できない。夢と希望のある将来に向けた農業振興策について、今後、積極的に取り組んでいかれるのか。またその具体的な内容について伺いたい。	畜産課	現在、講師価格は全国トップクラスを維持しているが、今後の情勢を注視しながら、必要に応じて対応策を検討していく。 また、家畜防疫対策等についても、関係機関が一体となり積極的に取り組んでまいりたい。				・回答に同じ								

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	進捗状況（H28年度末現在）	進捗状況（H29年度末現在）	地区振興計画	H27当初予算	H28当初予算	H29当初予算	H30当初予算	完結分
H28	1	黒木	農業振興対策について 過疎化、高齢化が進展すると、農林地域の衰退は座視できない。夢と希望のある将来に向けた農業振興策について、今後、積極的に取り組んでいけるのか。またその具体的な内容について伺いたい。	六次産業対策課	ソフト・ハード両面からの独自の支援や、各種講習会の開催等の事業を実施している。本市農業全体の底上げという観点から、中長期的視点に立ち、今後も積極的に取り組んでまいりたい。			・六次産業化支援事業補助金によるソフト・ハード面の支援のほか、六次産業化を学ぶための仕組みづくりとして講習会を開催した。そのほか異業種とのマッチング機会の創出を目的とした農商工異業種交流会、商品マーケティングの支援を目的としたフェアの開催など、多方面での支援を行った。 ・今後も農林漁業の振興に向け、積極的に取り組んでいきたい。	・同左			○	○		
H28	2	蘭牟田	観光地蘭牟田池の活用等について 蘭牟田の良さをアピールするためにも、県大会レベルの陸上大会等を誘致できないか。	スポーツ課 観光・シティ-似課	現在、「川薩地区中学駅伝競走大会」の他、「蘭牟田池外輪登山大会・マラソン大会」や「蘭牟田池外輪山トレイル大会」が開催されている。県大会レベルの各大会主催者に確認したところ、いずれの大会も会場を固定しており、継続開催する意向であった。したがって、これらの大会の誘致は現段階ではかなり難しいと考える。			・回答に同じ						○	
H28	2	蘭牟田	観光地蘭牟田池の活用等について 年次的に実施されている湖面内のやなぎ除去をさらに進めていただきたい。	環境課	やなぎの伐採については、平成17年にラムサール条約に登録されて以来、平成26年度まで実施していた。平成27年度は蘭牟田池の水位が高く、実施を見送った。また、蘭牟田池の生態系の調査等を委託しており、その専門家から「やなぎには鳥や昆虫など、多くの生きものの止まり木として重要」との意見をもらっており、平成28年度も見送った。平成28年度に実施した蘭牟田池の植物等の調査結果が来月ぐらいには出てくると思われるので、今後は、その調査結果に亜羊頭を確認した上で、やなぎ伐採の実施について検討してまいりたい。			・今後も専門家の助言をいただきながら、対応について検討していきたい。	・同左						
H28	3	轟	市道「仕明線」(500m)の道路拡幅について	建設維持課	この道路は、合併前に拡幅できないかの検討がなされたと聞いているが、道路と排水路の高低差が大きく、暗渠化した場合の維持管理が厳しいこと等から、実施には至っていない。一方、子供たちの安全性や離合の際に支障がある等の問題が現状としてある。予算面や交通量の関係上、全体的な拡幅は厳しいが、部分的な拡幅、あるいは離合場所の設置等は十分可能と考える。その際、地権者から用地を買収する作業が第一段階となる。なるべく早い時期に、支所の担当課を含め、現地と一緒に確認しながら、整備の手法等について意見交換をさせていただきたい。			・現地調査の日程調整中	法面部分を拡幅し施工した。平成30年度には完成見込み。			○	○		
H28	4	大村	大村住宅団地等及び大村公園の整備等について 大村特定公共賃貸住宅の家賃が高いので、下げてもらえないか。また、藍屋住宅については空き部屋が多いので、改修等による環境改善を行っていただきたい。	建築住宅課	入居対象者や入居目的等、一般的な公営住宅とは異なり、様々な制約がある。また、合併後、住宅の基準、性質に合わせた家賃に見直しされ、現在運営されており、容易に減額はできないと考えている。ただ、地域の実情もあり、何らかの方法で減額ができないか、国・県等関係機関へ相談してみたいと思うので、しばらく時間をいただきたい。また、藍屋住宅については、不具合部分は対応していく。入居者募集も随時行っている。			・特定公共賃貸住宅の家賃算定は、住宅の床面積に連動している。何らかの方法で減額ができないか、国・県等関係機関へ相談してみたいので時間をいただきたい。 ・一方、藍屋住宅については、住宅設備の不具合部分についてもその都度対応しており、入居者募集も随時行っている。	・大村特定公共賃貸住宅について、高額家賃を下げるために空き住宅の用途廃止を計画している。市の条例改正案を作成しており、国・県等関係機関へは用途廃止（変更）等の許可を受けるために申請手続きを調整中である。 ・一方、藍屋住宅については、不具合部分を改修しながら入居者募集を随時行っている。						
H28	4	大村	大村住宅団地等及び大村公園の整備等について 大村公園は、砕石砂利が一面に敷き詰められており、運動場あるいは子供の遊び場としてはふさわしくない。採石等の除去を行い、適正な整備をしていただきたい。	建設整備課	大村公園については、平成22年に地元から石粉を撒いて整地をしてほしい旨の要望があり、整備を行った。今後の利活用の状況が明確になり、要望をお示しいただけたら、重機ですき取り、クレーンほそうすることは可能である。今後、地区の皆様と一緒に話をさせていただきたい。			・未着手 大村公園四阿柱取替修繕（4本）を実施した。	・未着手 広場の整備については、大村地区コミュニティ協議会で活用方法等を検討中。						

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	進捗状況（H28年度末現在）	進捗状況（H29年度末現在）	地区振興計画	H27当初予算	H28当初予算	H29当初予算	H30当初予算	完結分
H28	4	大村	大村住宅団地等及び大村公園の整備等について 大村団地の販売促進を図っていただきたい。また、分譲価格をさらに安価にできないか。	財産活用推進課	大村団地については、平成24年度に不動産鑑定評価の再評価を行い、分譲価格を見直して大幅に単価の引き下げを行っている。現在も、市のホームページや新聞広告等で販売促進を行っている。 分譲価格の値下げについては、平成24年度の見直しで半額近く値下げした区画もあり、すぐの対応は難しい。 分譲地も市の公有財産になる。極端に安価になると、適正な対価を認めている法の規定に抵触する恐れがある。また、分譲地を購入されて間もない方々もおられ、個人の資産価値の下落にもつながることから、この点については慎重に検討する必要がある。 平成29年度は固定資産税の評価替えの年度に当たることから、その結果や地価の動きを見ながら、また、平成28年9月に1件売却できているので、そうした物件の引き合いの状況等も踏まえながら検討させていただきたい。			・平成29年度の固定資産評価替後に、地価の変動等を踏まえ検討していく。	固定資産評価替後の平成30年の固定資産評価額を確認し、地価の変動等を踏まえ検討をしてみたい。						
H28	5	上手	過疎化・人口減少対策について コミュニティ協議会運営交付金及び自治会交付金の算定額の見直し（世帯割額の引き上げ等）をお願いできないか。	コミュニティ課（現 地域政策課）	本市においては、人口減少、少子高齢化に対応すべく、平成22年には、65歳以上の者の人口が50%以上の自治会を「ゴールド集落」として地域活性化を図るための「薩摩川内市ゴールド集落活性化条例」を制定した。該当する自治会やゴールド集落を含むコミュニティ協議会への財政支援も行い、その成果も出てきつつある。また、先の12月議会において、引き続き、平成32年3月までの3年間の期限延長が議決されたところである。 御指摘の算定額見直しについては、どの地域も共通の課題であることから、コミュニティ協議会及び自治会の現状や活動状況も踏まえながら、全市的に調査、検討を進めてまいりたい。			・回答と同じ	・回答と同じ						
H28	その他	黒木	公民館のスペースが狭いので、竹細工教室を地域おこし協力隊の詰所として利用できないか。	農政課	竹細工スペースについては、既に条例を廃止し、黒木コミュニティ協議会との話も進んでいたが、現在、止まっている状況である。主管課と協議し、今後どのような形にできるかを検討させていただきたい。			・当該施設については、黒木地区コミュニティ協会の無償貸付し、一部施設が、地域おこし協力隊の事務所として活用されているところである。							○
H28	その他	黒木	豊州島津家の墓所が史跡として残っているが、保存状態が悪い。黒木小学校の横にある円明院跡も同様である。こうした文化価値のある箇所を整備していただき、できれば歴史公園のようなものにできないか。	文化課	旧祁答院町時代であった平成15年に、8つの遺跡を町の史跡として指定しているようだが、その中にこの豊州島津家の墓所が入っていない経緯をまず確認する必要がある。円明院跡もしかりだが、市にとっても貴重な財産なので、どういうふうに管理し、見守っていくかを考えなければならない。 関係課の方々と、今後の在り方をしっかり検討していきたい。			・現段階で特に進捗はない。							○
H28	その他		祁答院公民館の2階調理室については、ガスの配管に問題があり、修理できないとのこととで放置された状態である。生活センターは手狭であり、保健センターはイベントの多い土・日・休日には使用できないため、支障をきたしている。公民館の調理室を安全に使用できるよう修繕していただけないか。	社会教育課	さっそく調べて、使用できるようにしたい。			・要望者に聞き取りを行った結果、祁答院公民館調理室を改修しても、要望者における利用は年1～2回程度であり、今回、公民館に隣接する生活センターが手狭なことから、本要望に至ったとの経緯を確認した。そこで以下のとおり関係者と調整し、要望者もこれを了承したものである。 ①地域の意見を聞いた上で生活センターの条例を改正し、不要な機械等を整理する。（農政課対応） ②それまでの間、土日のイベント等のために保健センターの調理室を使用する際は、特別に保健センターを開館する。（支所地域振興課対応）	近隣施設調理室の利用改善を行った。①生活センターの洗濯機や乾燥機は撤去され、広く利用できるようになった。（農政課対応） ②土日のイベント等のために保健センターの調理室を使用する際は、特別に保健センターを開館する。（支所地域振興課対応）						

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	進捗状況（H28年度末現在）	進捗状況（H29年度末現在）	地区振興計画	H27当初予算	H28当初予算	H29当初予算	H30当初予算	完結分
H28	その他		さつま町は行政が竹林に力を入れており、住民の研修等に公用車を活用しているとも聞いている。本市でも、公用車を活用させていただけないか。	林務水産課	本市も、マイクロバスや5、6人が乗れるボックス型の公用車を備えている。そうした中で、どの範囲まで市民の方を乗せて研修等に行くことができるかについては、各々の用途に応じて主管課と協議をさせていただきたい。 さつま町で実際に実施されているので法的に問題はないと考えるが、場合によっては抵触する可能性もあるので、可能な範囲で有効活用させていただきたい。			<ul style="list-style-type: none"> マイクロバスを除く公用車は、庁用自動車管理規則により、研修等に活用することはできない。 しかし、薩摩川内市バス使用規則の使用基準の1つとして、市が主催又は公共的団体等と共催して行う視察研修について使用することが可能とされていることから、今後、団体等の共催申請等があれば、適宜判断してまいりたい。 						○	
H28	その他	大村	大村公園に、安全性の高い遊具を設置してもらえないか。	建設整備課	大村地区の議題の中で、整備をしていただきたいとの要望もあったことから、これと併せて、どちらを優先するか等について協議をさせていただきたい。			<ul style="list-style-type: none"> 未着手 	<ul style="list-style-type: none"> 未着手 広場等の整備については、大村地区コミュニティ協議会で利活用方法等を検討中。 						
H28	その他	黒木	黒木地区で暗渠排水事業を要望しているが、市の予算も微々たるものとのことなので、国・県に予算の要望をしていただきたい。	耕地課	田んぼの暗渠排水事業については、国県事業を導入しながら行っているが、今後、耕地課サイドとも協議をしながら、どの程度の事業が行えるか検討してまいりたい。			<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度から国の補助事業である農業基盤整備促進事業に取り組んでいる。 							○
H29	その他	黒木	鳥獣被害に係る電気柵の設置について、中山間地域等直接支払事業として取り扱っていただくことはできないか。	農政課	この中山間地域等直接支払事業は、耕作放棄地の増加等により、多面的機能の低下が特に懸念されている地域において、農業生産条件の不利を補正する農家等への交付金により、農業生産活動を維持し、耕作放棄の発生を防止する観点で行われている。 質問いただいた件については調べる必要があるため、一旦持ち帰らせていただきたい。			<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域等直接支払交付金第4期（H27～H31）対策の活動メニューの1つに、鳥獣被害対策があり、電気柵の設置等、取り扱いが可能である。 							○